

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024 年 2 月 29 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 420-0002

所在地 静岡県静岡市葵区材木町8番地1柴山ビル8番地1

評価機関名 株式会社第三者評価機構

認証評価機関番号

機構 17 - 240

電話番号 054-266-7675

代表者氏名 曾根真奈美

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	原崎小百合	経営	H1701032
	②	澤部 栄	福祉	H1701001
	③	山根 洋	福祉	H2201019
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所(小規模)			
評価対象事業所名称	はな保育園			
事業所連絡先	〒	133-0061		
	所在地	東京都江戸川区篠崎町7-13-8		
	Tel	03-6383-2757		
事業所代表者氏名	渡部君子			
契約日	2023 年 9 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 9 月 30 日			
利用者調査結果報告日	2023 年 11 月 2 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 9 月 30 日			
自己評価結果報告日	2023 年 11 月 2 日			
訪問調査日	2024 年 1 月 16 日			
評価合議日	2024 年 2 月 18 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、当機関の姿勢、進め方について事業所代表者に説明をおこないました。利用者調査は保護者に向け全戸を対象としたアンケート調査を実施しました。また事業評価は利用者調査結果も併せ、経営層及び職員個別の自己評価結果における着眼点と考察を調査者間で共有したうえで訪問調査に臨みました。訪問調査では、事業所代表者に対するヒヤリングと書面確認をおこない、その後評価調査者(第三者委員会メンバー助言含み)の合議により、評価結果をまとめました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年 2 月 29 日

事業者代表者氏名 渡部君子

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者支援を重視している。</li> <li>・大人都合の保育にらず子ども中心の保育を心がけている。</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割に責任を持ち、報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・リーダーは常に職員の人数を把握し、円滑に回るよう指示を出す。</li> <li>・サブリーダーはリーダーと子どもたちの導線を作り過ぎしやすいように考えて動く。</li> </ul> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・責任を持って仕事を行う。</li> <li>・相手の立場になって物事を考え行動する。</li> </ul>

調査対象	利用者家族19世帯を調査対象にアンケートを実施し、結果17世帯から回答が得られました。回答者の年齢は、25～30歳未満2名、30～35歳未満6名、35～40歳未満7名、40～50歳未満1名、記入無し1名でした		
調査方法	調査票は利用時に事業所経由で配付、回収は玄関に投函箱を置く方法を事業所が希望しました(これまでポスト投函では回収率が低かったとのこと)。封筒は封入シール付きで、事業所がまとめて評価機関に郵送するまで、他者が中身を確認することはできません		
利用者総数	19		
利用者家族総数(世帯)	19		
共通評価項目による調査対象者数	19		
共通評価項目による調査の有効回答者数	17		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	89.5		

利用者調査全体のコメント

総合的な評価では、「大変満足」が6名(35%)、「満足」が8名(47%)、「どちらともいえない」が3名(18%)と、「大変満足」および「満足」の回答が全体の82%で、概ね事業所に満足していることが覗えます。「毎日の連絡帳以外にお迎え時にも話を聞くことができるので、安心している」「事情を伝え、時間変更をお願いしたら快く対応してもらえた」「物理的に狭い以外は何も不満はない。狭いといっても1歳、2歳の子どもには十分で、先生の目が行き届いている。駅近の立地は送迎が楽で助かる」との声があり、特に「保育園での生活で身近な自然や社会と十分関わっていると思う」と「病气やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」において、保護者の回答が100%「はい」となり、良好な結果に至っています。一方で、言葉の遣い方については複数の改善要望が挙がっていますので、今後の是正を望みます。また家庭数が少ないとはいえ、89%の回収率というのは評価されることです。1点「行政等外部の苦情窓口がある」ことは、他の項目とは違い「はい」が50%を割っていますので、今後保護者にかみ砕いた説明が必要です

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	15	2	0	0
「はい」と回答した人が88%、「どちらともいえない」が12%でした				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	13	4	0	0
「はい」と回答した人が76%、「どちらともいえない」が24%でした				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	15	2	0	0
「はい」と回答した人が88%、「どちらともいえない」が12%でした				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	17	0	0	0
「はい」が100%でした				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	3	1	4
「はい」と回答した人が54%、「どちらともいえない」が17%、「いいえ」が5%、「無回答」が24%でした				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	14	3	0	0
「はい」と回答した人が83%、「どちらともいえない」が17%でした				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	15	2	0	0
「はい」と回答した人が88%、「どちらともいえない」が12%でした				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	12	4	1	0
「はい」と回答した人が71%、「どちらともいえない」が24%、「いいえ」が5%でした				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	15	2	0	0
「はい」と回答した人が88%、「どちらともいえない」が12%でした				
10. 職員の接遇・態度は適切か	12	5	0	0
「はい」と回答した人が71%、「どちらともいえない」が29%でした				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	17	0	0	0
「はい」が100%でした				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	11	3	0	3
「はい」と回答した人が66%、「どちらともいえない」が17%、「無回答」が17%でした				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	15	2	0	0
「はい」と回答した人が88%、「どちらともいえない」が12%でした				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	14	3	0	0
「はい」と回答した人が83%、「どちらともいえない」が17%でした				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	14	3	0	0
「はい」と回答した人が83%、「どちらともいえない」が17%でした				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	2	1	2
「はい」と回答した人が71%、「どちらともいえない」が12%、「いいえ」が5%、「無回答」が12%でした				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	7	2	2	6
「はい」と回答した人が42%、「どちらともいえない」が12%、「いいえ」が12%、「無回答」が34%でした				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>2/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(●●)</span>	
	評価	標準項目
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(●●●)</span>	
	評価	標準項目
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right"><input type="radio"/>非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	事業所の理念は園長主導の下推進されていますが、浸透への方策が求められます 事業所の理念「明るく元気に素直な子」は、「江戸川区認可小規模保育所」の紹介頁にも、「入園のしおり」や「重要事項説明書」にも明記されていません。理念推進への取組としては、入園のしおりに歳児毎のねらいとして理念を具現化した内容を組入れるとともに、朝礼や会議、普段の雑談の中でも園長が話して、理解を求めています。都度指導にあたってはありますが、職員が理念を想起した取組に至る実現性や、保護者が理念に共感して職員に協力するといったことにつながる方策が薄い状況にあります。来期に向けて是正の考えがあります  入園にあたって保護者には園のスタンスを伝えていますが、確認には及んでいません 「入園のしおり」には、「明るく元気なお子さんに」「すくすく育つために」と入園にあたって保護者に伝えたいことが文字のサイズを大きく表示しており、園を理解してもらいたいとの想いが伝わってきます。一方、理念は明確な記載がなく、保護者に向けたアンケートにおいても「保育活動を通じて理念を推進できていると感じますか」といった問を設けるなどの浸透確認もおこなわれていません。但し、今後は保護者と共通認識を持って協力し合えるよう、園経営を通じて事業所が何を成そうとしているかを明瞭に届けていこうとの考えに立ち返っています  保護者同士が関わる機会を増やし、またそこから職員との親交も深まるよう願います 毎日の登降時は保護者同士が居合わせる場でもあり、また職員は僅かな時間であってもその日の子どもの様子や活動状況を保護者に伝えるよう努めています。さらに園長との個人面談も年2回あります。但し参観会はなく、保護者同士が親しく会話を持てる機会としては「縁日ごっこ」と運動会となっています。各クラスのLINEグループがあり、2歳児になると保護者間では顔なじみとなり、「記念品は何にしようか」といった話し合いに発展していますが、今後は保護者同士が関わる機会を増やすことで、職員の意欲を養い、保護者の信頼感を高めていくことを	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
○あり ●なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
○あり ●なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(●●●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>理念や基本方針の実現に向けた具体的な取組を示す中・長期計画の策定が求められます</p> <p>自己評価に基づき課題を掴み、保育方針の実践に関わる理解を深め、職員の資質向上を図ることを目的に園内研修を策定しており、目前の課題改善は推進されています。但し、長期的展望に立った計画や改善につながる「中・長期計画」の策定には及んでいません。「中・長期の事業計画」とは、理念や基本方針の実現に向けた具体的な取組を示すものです。目標を明確にし、それを実現するために、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成に関する具体的な計画となっている必要があります。また併せて実現のための収支計画も必要です</p> <p>取り巻く環境について客観的なデータを収集し、長期的な運営につなぐことを期待します</p> <p>事業所には継続性を見通しながら、子どもに良質かつ安心・安全な保育の提供が求められています。長期的視野に立った推進には、社会福祉事業全体や事業所が位置する地域の福祉需要の動向は欠かすことのできない情報です。現状は、データの把握や分析には及んでおらず、「町内会費を払っている」「祭りでは招待状が届くので祝儀を届けている」といった地域との関係づくりに留まっています。今後は事業所を取り巻く環境についての数値把握をおこなうとともに、保護者から聞き取った内容も事業経営に関わると捉えたことは抽出しておくことを望みます</p> <p>保護者の意見を集めて課題を見出しはありますが、全体共有には工夫が望まれます</p> <p>成長の様子や困り事、健康や体調面、迎への時間の変更など、送迎時の保護者と担任との会話については、「報連相が大事ですよ」との園長指導が入っています。また連絡事項はホワイトボードに書くか、各自メモをとるなどして朝礼でも確認され、運営職員に直接口頭で伝えるよう図られ、特にホワイトボードの活用の深耕は重要としています。一方、「申し送りノートを作ったが活用されなかったで現在は止めている」との事例からも、園長への報告義務や園全体で共有すべき事柄への職員意識には課題が残り、全体共有に向けた工夫が望まれます</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b> 2/2
<b>評価項目1</b> 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的を確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b> 2/4
<b>評価項目1</b> 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている <span style="float: right;">評点(〇●)</span>		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている <span style="float: right;">評点(〇●)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b> 3/5
<b>評価項目1</b> 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇●)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇●)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

### カテゴリー3の講評

#### 守るべき法や倫理について年間計画を立案、研修を通じて職員は学んでいます

園内研修、園外研修の年間研修計画を策定しています。全国保育士倫理綱領を玄関に掲示するほか、年間研修計画には「子どもの人権教育・保育の根幹を学ぶ」と定義が謳われ、園内研修において「人権尊重の保育の必要性と理解」について学ぶ機会を設けています。キャリアアップ研修に参加の職員から資料を譲ってもらい保護者対応やマネジメントなどを園内研修で学んでもいます。経営層の研修に園長は参加した実績はありませんが、信用金庫開催のよろず相談には経営相談に出向き、そこで法令を学ぶ事があります

#### 虐待防止や倫理遂行は言葉の遣い方一つひとつを見直して改善にあたっています

虐待対応マニュアルに基づき虐待予防チェックシートを導入していますが、規模が小さいこともあり、委員会設置には及んでいません。通報義務について園長から講話の機会も設け、日々においては朝礼後に「今日も一日不適切な保育がないように」と必ず添えています。「何が不適切な保育にあたるか」の知識共有は必要として、園内研修では「乳幼児期の重要性和保育士としての心構え、人権の尊重と意識向上」とのテーマで学び、例えば「早くして」と言うてはいけない、ではどのように声をかけたらいいのかというように具体的に提示されています

#### 区の事業への協力で社会的責任を果たしつつ、子どもの笑顔を引き出しています

「事業所の専門性を地域へ提供した」については、江戸川区次世代育成支援行動計画における「子どもボランティア」を通じた生徒の受け入れは実績として積み重ねており、他に花植えなどのボランティアも受け入れています。ボランティア受入指針や受入マニュアルの備えはないものの、受入担当は主任とし、オリエンテーションでは園の理念や運営について話しています。生徒はお兄さん、お姉さんとして子どもと一緒に遊び、運動会や生活発表会に加わることもあり、子どもの笑顔の引き出しと成長に一役買っています

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評価 (○●●●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 1/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評価 (○●●●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
○あり ●なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>人材の確保と育成を最優先のリスク管理として取組むも採用計画策定には及んでいません  「人材の確保・育成が最優先すべきリスクと考えている」と園長は明言しており、「BCPは区から要請はない為策定していない」状況です。人材確保に向けては、江戸川区小規模保育所連絡会で「江戸川区小規模保育所就職フェア」が本年度1月にも開催されていますが、現状配置基準を満たしているとの理由から参加には及んでいません。「定年を迎える人は嘱託で残ってくれるだろうか」「独身者の中で結婚後は退職を考えている人は何名いるのか」などを中・長期的な視野を以って整備及び書面化する、すなわち採用計画の立案を期待します</p> <p>災害対策や、事故予防及び再発防止はマニュアル内に適切に整備されています  非常用持ち出し品や備蓄品のチェックシート、緊急連絡フローチャート、避難カードが備わり、「災害時危機管理マニュアル」の用意があります。また救護班といった災害時担当係を定め、レトルト食品をはじめとする食料備蓄のほか、給水用ポリタンク、カセットコンロなどの備品も各種揃っています。「安全管理マニュアル」にはリスクマネジメント、クライシスマネジメントのほか、子どもの安全を守るためのポイントが明記され、さらには「こんなときどうする～万が一が起こってしまったら」との注意喚起は、事例を通じた解説となっています</p> <p>散歩の場面やヒヤリハットには「未然に防ぐ」ことに注視した取組が見られます  散歩では災害が起きた場合を想定して「決められた道以外を歩かない」とするほか、散歩ノートには出発と戻る時間を日々記録に残して、有事の状況把握がしやすいよう図っています。また移動する場合は園へ連絡を入れるとのルールも設けています。ヒヤリハット、事故報告書はIT化され、パソコン上で管理しており、ヒヤリハットは毎月5件ほど挙がっていて、職員が危機管理に努めていることが伝わります。防災についても歳児毎の取り決めが明確で、子どもには紙芝居や絵本で避難訓練について伝え、恐怖心を軽減させる取組もあります</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点(●●)</span>		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <span style="float: right;">評点(●●)</span>		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(○○●●)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(○○○●)</span>		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
<b>評価項目1</b> 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(○○○)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

人事評価制度に基づくものではないものの、年間研修計画の策定がおこなわれています

園外・園内年間研修計画はありますが、人事評価制度はなく、職員のキャリア形成と連動したものではありません。教育については、主に区が主催するキャリアアップ研修を活用しています。外部研修は事務所内に貼りだして、受講したいと考える箇所に氏名を書いてもらうという方法をとっており、小規模研修会や江戸川区研修などの外部研修には毎月2～4名が参加しています。土日開催が大半なため、平日に振りかえ休日を取ってもらっていることも職員の参加意欲につながっています

職員の定着に向け、勤務状況や人間関係に配慮し、働きやすい職場づくりをしています

職員の働きやすさを第一に考え、シフト表は園長が作成しています。遅番早番は均等に入るように、また土曜日も順番にと、「平等に」を心がけ、希望休は申し出がなければ適宜調整し叶えています。更に働きやすさへの一環として、休憩時間表を作成しています。年5日有給休暇義務化は無論のこと、夏休みも含み100%有給取得できており、人間関係を考慮して1階と2階フロアの配置を工夫しています。更に園内研修でも「職員の協力体制・連携について」として、行事や職員同士の連携体制が構築できるよう学んでいます

行事や保育について組織として学び、共有することがチームワークの促進となっています

七夕、運動会、クリスマス会、お正月遊び、生活発表会、ひなまつり会、卒園式などの年間行事は「行事計画と反省」に記録が残され、計画書を供覧することで注意点やねらいを全職員が把握して取組んでおり、活動プログラムを共有することでチームワークにつながっています。保育についても次年度に向け「クラス担当について、歳児毎の実態と保育者の援助」として時間を設け、「子どもの特性を知り全体活動を知る」、「次年度に向けての取組と準備」について話し合う場があり、意識を高めています

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

令和4年度の重要課題は次です

「子どもの人権を守りながら、保育士の人権も守る」

事業所が大事にしているのは、第一に子どもの安全と安心ですが、職員のこと大切とし、日頃から「働きやすさ」に配慮しています

「職員が気持ちよく働けたら、保育の現場にも好影響を与え、子どもにとっても有益である」との考えが裏付けとしてあります

そのために何をしたらいいか、まずは「～してくれない」とか「これができない」といった非難めいた発言がでないよう、職員間の協力意識を高めていくことを目指していくことに取り組んでいます

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【目標に向けた取組】

「具体的な目標を設定し、その達成に向けて取組をおこなったか」については、まずは4月の会議で「見つめ直そう」と話し合っています。更に、他園からみた自園の良さや強み、弱みに気づけるとよいと考え、小規模園同士の保育士交流会を実施しました。また日々の会議や研修の中で「職員同士が中傷することが保育に与える影響を考えてもらうようにした」「会議上で同僚の言動について悪く言わないことを徹底させ、みんなで作る大切さ、担任制で分けていてもチーム保育を意識してもらえよう配慮した」といったことを園長が主導しています

【検証】

評価・反省、良かった点、悪かった点、を全職員に3月初めに書いてもらうことで、その取組を検証としています

【検証結果の確認】

評価、反省など振返りは園長がまとめて集計し、会議の時に報告しています。多数出た意見については2月～3月にかけ、子どもの降園後に時間を確保し話合っています

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

目標に向けた取組は実践はアクティブで他の園も巻き込んで職員の意識を高めることに寄与しています。また、実践が1つでなく、複数で多面的なアプローチがあったことは評価に値します。検証も組織的におこない、丁寧です。検証結果は、反映までに及ばず、確認に留まっています。そのため、本件は次年度にも引き継がれています

目標の設定と 取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「子どもの人権を守りながら、保育士の人権を守る」ことは終わりのないテーマとして今後も前年度の取組を継続しています。その取組を通じて、「子どもの最善の利益を守る」に照らした活動を組織的に展開している点は有益です。例えば話し合いの中で、「保護者が参加できる行事の開催(縁日ごっこ)が向上課題として挙がり、「曜日を考慮し、保護者が参加しやすい土曜日の開催とする」との目標を設定しています。「土曜日開催としたことで、お父さんも来られてよかった」との悦ばしい検証が得られ、結果の反映として、「縁日ごっこは土曜日の開催として親子で楽しむ会とし、保護者間の交流の機会としても役立つようにする」と定義づけられ、上位目標達成の一つの取組として実っていることが観えます

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学が要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>区内の小規模保育所を利用者が比較でき、適切な選択となるよう尽力しています</p> <p>「江戸川区認可小規模保育所」と命名された園紹介の冊子が4千部刷られ、2千部を区が預かり、残りを区内の小規模保育所がPR材として活用しています。この冊子は当園の園長が発起人となり、協力くださる他2園とともに企画段階から手塩に掛けたもので、園にとっても愛着があります。またカラー印刷で鮮やかなうえ、園の特徴がわかりやすく盛り込まれており、より良い選択に帰することが観えます。園では自ら利用者や、今後対象となる保護者に手渡すほか、嘱託医にも置いてもらい、地域の対象者の手に届くよう図っています</p> <p>見学会の日程を定めることで、利用者の便宜と園の集客率を高めています</p> <p>小規模で職員数が限られているため、毎日のように見学があつては園運営に支障をきたすことがあり、予め見学の日程を決めています。月1回の土曜に10時と11時で開始の時間分けをおこない、各グループ5組までとしています。1名に対して説明するより効率が良いという利点があり、またそれ以上に保護者もお互いの質問に刺激されて、「あっ、それ私も聞きたい」ということがあつて、有意義な時間にあつています。定めた日以外は基本おこなっていないものの、年度途中で空きがでた場合は、区役所からの依頼に応じて随時で見学を受入れています</p> <p>入園希望児童折衝票を備え、利用者との情報共有が早期に確立しています</p> <p>園長自身が子育て中の時、他の子どもの名前が入つたおむつを持ち帰った経験から「自分が嫌な思いをしたことはしない」という信念の下、おむつは個人持ちでも捨てるのは園が担当しており、「サブスクリプションとして定額料金で処理します」といった園の考えや運営内容を説明会では伝えていきます。説明会当日に「入園希望児折衝票」をその場で記入してもらつて、話し合いのスタートとしており、他にも「一次の申し込みで落ちた人が、二次の見学に来ているかどうか」は区の担当部署からの問い合わせも入ることから、貴重な確認資料にもなっています</p>			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園説明会、個別面談が順次おこなわれていますが、確認事項の整備は課題です</p> <p>入園説明会は2次募集が終わった時点として、毎年3月の第1週目としています。重要事項説明書の配付とともに年間の行事日程を伝えるほか、個人情報承諾書やブログの閲覧パスワード、持ち物リストの説明もおこなっています。また説明会の後には職員が個別対応で更に質問を受付、丁寧な確認への対策もあります。更に入園式後には園長が情報交換を実施する場を設け、健康調査票や児童調査票の整備も進めています。但し、保護者の中には「後から必要なコトやモノがでてくるのは困る」という意見もあることから、確認事項を改めて整備することを期待します</p> <p>慣れない子どもへの対応メニューを整え、保護者の不安軽減に努めています</p> <p>「子どもは日を追って慣れると捉え、ゆったりと受け止める」「朝泣いている子どもをお迎えでは笑顔で返せる。それが保護者の安心につながる」というのが園長の想いであり「日を追っての変化を見定めて子どもの環境適応力を支える」というのがスタンスです。また子どもの不安を軽減するための方策として「気分転換のお散歩」があり、少し遠出ではポニーランドの30分という距離を含む12の散歩コースがあります。また散歩はクラス単位で集団活動なもの、どうしても泣き止まない子どもは個別対応で園庭に出て気持ちを開放できるよう図っています</p> <p>転園では、日頃の様子を把握する園ならではの提案と助言をおこなっています</p> <p>小規模園ことから、年齢が満3歳になれば4月から転園することになります。連携園は幼保連携型認定こども園であり、教育プログラムが揃うことから、「集中できる子、自分の思いをしっかりと伝えられる子ども」であれば園長自ら「適している」ことを提案しています。また保護者側から相談があれば、その子どもの特性を踏まえ「子どもにとってどうなのか」を一緒に考え、また大人都合で選ばないよう助言しています。最後に選ぶのは保護者でも、「体を動かす事が好きな子は園庭を考慮する」など日頃の様子を把握する園ならではの相談役となっています</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(○○○●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(○●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(○○●)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>子どもの状態について専門機関の助言を仰ぎ、保護者と情報共有を図っています</p> <p>「江戸川区児童発達支援センター」からは、毎年「気になる子どもがいますか」「相談が必要ですか」と問いかけが入っています。本件については保護者に承諾を得る必要はなく、園から希望を出すと、訪問派遣があります。ほぼ1日滞在中で観察をおこない助言をくださり、助けられています。その後、保護者も日常的に子どもの様子を心配している場合は、助言の結果を伝える面談を実施しており、保護者からは「こういう話をする機会をもらって気持ちが楽になった」「立ち止まって子どもの事を振り返る事ができた」との感想や意見が入っています</p> <p>「発達記録」は手書きで丁寧に綴っており、月に一度の記載頻度としています</p> <p>アプリの導入から総じて職員の業務軽減となっていますが、「発達記録」は導入以前から現在に至るまで手書きで、園長は保育の要として重要視しています。年度の途中でも、気になった事があれば見返して振り返りに活用でき、特に年度が変わった際には持ち上がりにならない職員が子ども一人ひとりの情報を得るのに大変有効なものとなっています。「ファイルに綴じてあるので2つの情報を見比べやすい」という意見が職員からも挙がっていて、唯一手書き作業を有益なものとして残しています</p> <p>歳時毎に定めた手順と場でモニタリングをおこない、子どもの状態を網羅しています</p>		

2歳児クラスは昼寝の時間を活用してその日の反省や申し送りをしていて、その場が評価と振り返りの場となっています。1歳児は週案会議時にその延長でおこない、0歳児は一名が午後出勤なことから日常会話での情報交換としています。「良かった」と、結果のみの職員もあり、「どこがどのように良かったのか」と、園長が成長を促す場面もあります。また「振返って見落としがあったら、次に生かす事が大切」「頻度の高いものはパターン化してみることも必要」と提案していますが、職員がモニタリングを現場に反映させる力の確立はまだ道半ばです

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇●)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どもに関する情報は、保護者の承諾を得たうえで慎重に取り扱っています  契約時には契約書、重要事項説明書とともに「個人情報・その他・承諾書」に従って説明をおこない、「ホームページ、ブログへの写真掲載はよいか」「園便りに子どもの名前や誕生日の記載はよいか」「行事や日常保育におけるビデオや注文用写真の撮影はよいか」といった事柄の同意を口頭だけでなく、書面上で得ています。また書面に記載がない内容について外部とのやりとりを行う場合は、保護者に必ず確認をとっています。また転園において先方から求めがあった記録も事前に保護者の承諾を得ています</p> <p>子どもの羞恥心に配慮した保育を推進するための方策を考えて実施しています  子どもが着替えをする場面では、外から見えないようガラスに目隠しを貼っており、おむつ替えは決められた場所を設けています。またトイレの扉は子どもに開け閉めをさせてはおらず、最初は保育者が同伴して扉を閉め、「終わったら呼んでね」と声をかけていて、その方法でこれまで怖がる子どもはいません。また2歳児は汗を流すために初夏から真夏にかけてシャワータイムがありますが、個別対応としていて何人も一緒ということは避けるとともに、バスタオルで身体をくるみ、羞恥心とプライバシーに配慮しています</p> <p>子どもを尊重した保育となるよう保育者間の認識はあるも、研修実施は不十分です  小さな園ですのでフロアに限りはありますが、保育者は一人ひとりのスペースを尊重し、特に日によっては静かに過ごしたい様子の子どもと他の子どもの距離を気にかけています。育児困難家庭があった場合には、園長が個人携帯を教えて「いつでも電話くれればいい」と伝えていて親身ですが、事例検討につなげるといった取組は薄く、また園に「起こっていない」ことを理由に、虐待防止に係る外部研修への機会を逸していることも併せて課題です。今後は本件に係る研修を計画に位置付け、重要事項説明書にも虐待防止を記載することは次年度予定されています</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	0/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(●●●)	
評価	標準項目		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(●●)	
評価	標準項目		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアルとチェック表の整備は道半ばですが、現場が困らないよう図られています</p> <p>保育を主体とした標準的な業務マニュアルについては園独自のものではなく、職員は個別の認識と会議におけるすり合わせで業務に入っています。現任職員については、0歳児クラスの隙間の時間を利用した意見交換、2歳児クラスの午睡時の話し合い、1歳児クラスの週案会議において現場点検的な事案が協議されていますが、それらがチェック表やマニュアルといった書面化に及ぶということはこれまでは残念ながらありません。ただし、小さい園のため園長の目がほぼ届く為、随時調整が入り、現場に支障はありません</p> <p>現在備わっているマニュアルの定期的な見直し、改訂があることを期待します</p> <p>マニュアルは主に東京都発行のものを使用しています。まずは現在備わっているマニュアルが現場に合っているのか見直しをおこない、それを定期的に職員間で話し合うことを望みます。定期とはなっていないものの園長が見直しをしているとのことですが、是非職員とともに実施され、おむつ替えといった現業を超えて職員が保育全体を捉え、考察する機会をつくることで「チーム保育」が高まることを期待します。また事業所の標準的な業務を見直すことで組織にマネジメントサイクルの仕組みが定着することも併せて望みます</p> <p>新入職員への指導は園長自らおこない、園の姿勢や考えを直接伝えていきます</p> <p>新入職員は、新卒者と経験者では園長の支援を替えています。新卒者には暫く何も言わず、「疑問に思ったことを書き出しておいください」と指示を出し、日にちを設けてその疑問に応じています。4月はならし保育なので、5月に入って重点的な視点を伝え、散歩において出発から帰ってくるまでを観察させ、「手をつないで歩けていない理由」、「滑り台を後ろ向きに滑るのはいいか」など、場面ごとに視点とポイントを園長が見極めて、その日のうちに本人の疑問が解決できるように支援、指導しています</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 34
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>相手の気持ちを分かるというのは難しい為、「理解してもらえよう」に話しています                      「子どものことをすべて理解するのは難しい」「保育に完璧はない」と踏まえ、                      「子どもがそこに至るまでの状況を見つめてほしい」「子どもが状況を理解できるよう易しく話してほしい」と、園長は考えています。                      職員に任せ現場に入りたくないと思っても、小さな園でほほ目と耳に入ってくるので、結局子どものケアとフォローを園長がおこなうことになり、                      不本意ながらも現場指導に入ることになることは課題です。また保育への考えと保育の方法について職員間で共有する仕組みも今後の取組を望む点です</p> <p>充実した散歩コースやサブスクを活用して、発達に応じた遊びが展開できています                      近隣の親水緑道は散歩コースの一つです。鯉が泳いでいるのでペットボトルを入れ物としてパンを持参しています。                      戸外へは他にもトレットペーパーの芯の双眼鏡も用意、好奇心や探求心が湧くような小道具を揃えています。                      2歳児になるとここに行きたいという要求もでてくる為、散歩コースは子どもの意見も取り入れています。また職員の発案からサブスクリプション方式で玩具を取り寄せることで様々な種類を提供でき、「今回は知育玩具を借りようかな?」「指先を使う玩具がいいかも」と子どもの発達に合った玩具を保育者が選ぶことができています</p> <p>特別な配慮が必要でも、他の子どもと近い生活を提供して成長を支えています                      昨年はブラジル出身の子どもがおり、韓国人の父親を持つ子どもやモンゴルの子どももいて多国籍な状態ですが、卒園式で保護者が職員一人ひとりにハグをする程度で、文化の違いが保育に大きく影響はありません。「シーユー」「アニョハセヨ」と挨拶する子どもの口癖を職員も真似て返すことで、子どもも笑顔になり、受け入れる姿勢が子どもの姿に反映されることを職員も学んでいます。                      二つのことが同時にできない子どもには一つずつ伝え、また職員が試用することで視覚から理解してもらおう工夫もおこない、褒めてその気にさせることも浸透しています</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>子どものその時々状態、気持ちに沿って関わる職員を応援する体制があります</p> <p>例えば、給食の時間になり眠くなった子どもに対して、早く食べさせようという発想がある職員もあり、指導と教育が不十分なことを園長は自覚しています。また午睡時、寝なかった子どもが何人もいて、職員が絵本を読んで過ごすといった子どもの状態に沿った対応をおこなった結果、休憩が30分しか取れなかった時は、「その分早く帰ってください」と職員の労をねぎらっています。他にも、夜泣きが酷いという保護者からの依頼から1時間で起こす子どもがいて、保育者としては手間なことですが、保護者からは夜泣きが無くなったと嬉しい声が届いています</p> <p>食事の提供は、子どもの気持ちに配慮しつつ安全安心のルールを遵守しています</p> <p>帰宅が遅くなる子どもが多いことから、おやつにはボリュームに重きが置かれる傾向があり、スパゲッティ・チャーハン・焼きそば・焼きうどんといったメニューが増えているものの、栄養士が工夫を凝らし、夕食に影響がないように図っています。また絵を描いたり粘土をこねるテーブルで食事を摂ることから、ランチョンマットを敷いており、2つしかないミートボールを落としてしまい、顔を曇らせた子どもに「ランチョンマットの上だから大丈夫だよ」と声をかけたところ、満面の笑み変わったとのエピソードもあります</p> <p>子どものリズムにゆえ安定した生活を支えるために「連絡帳」を活用しています</p> <p>連絡帳は保護者にとっては育児日誌にもなり、園としては子どもを把握する大切なツールであると考え、「保護者と園を結ぶものである」ともメッセージとして発信しています。また「健康のバロメーターなので便のことは書いてほしい」と保護者にはアナウンスしていますが、現状完全な状況には至っていません。他にも睡眠時間、食事の有無と内容はその日の保育に影響があるものとして重要視しています。更に0歳児については十分な確認が必要なことから、連絡帳の持ち込みが無い時は保護者に連絡をして、可能なら届けてもらっています</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもががまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>環境設定をおこなって子どもの自主性を尊重し、遊びこめる時間をつくっています</p> <p>2歳児が一人で遊ぶものはテーブルで、大勢でブロック遊びをおこなうときは床にシートを敷くというように、保育者が遊びの設定を支援しています。またその遊びは予め用意するのではなく、子どもが手を伸ばして遊び出せる環境を整えています。1歳児には子どもの周りに玩具を置き、食後から午睡までは、その時に遊べる特別の玩具を+αとして用意しており、これは巡回指導のアドバイスを活かしたものです。手作りの玩具も豊富なものの、作ったり提案したりする職員と、そうでない職員の格差があることは課題としています</p> <p>子どもが主体的に多様な表現活動を楽しみ、遊びに入り込めるよう援助しています</p> <p>子どもが主体的にさまざまな表現活動を楽しめるような企画が取り込まれています。2歳児のクラスでは、水遊びの一環で色水氷をつくって星の形をつくる製氷皿も用意されるほか、水風船と共に職員の発案で提供されています。また1歳児も色水氷を取り入れたことはクラス間でいい意味で真似ができていくことと捉え、園長としては嬉しい出来事となっています。プール遊びもネット情報を上手にキャッチする職員が「しゃぼんプール」としたり、ボディペインティングは「家ではできない経験をさせてもらえ嬉しいです」と、保護者からの声も届いています</p> <p>遊びが安全安心のなかで展開できるよう、ねらいを定めた準備に努めています</p> <p>例えば2歳児の月間指導計画の5領域(環境)では、ねらいを「戸外遊びでは固定遊具に興味をもって積極的に挑戦してみる」とし、環境構成は「十分に身体を動かせる公園を選ぶ」、予想される子どもの活動は「怖がってなかなか遊べない子どももいる」と想定、援助・配慮事項として「固定遊具の安全確認をおこなう」「身体能力に合わせた遊具に誘導しながら関わる」と組み立てています。また、お絵かきや制作では大人の固定観念で子どもの創造性を阻害しないように、道具のみ用意して声かけは最小限とするよう配慮しています</p>		

4 評価項目4		日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している			○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている			○非該当
評価項目4の講評				
<p>戸外活動では季節を感じ取れるよう図られ、子どもの楽しみに発展しています</p> <p>「子どもがこの季節にはこんな花が咲くんだな」ということを絵本ではなく実体験で伝えたいとの思いが園長にはあります。「卒園前に咲くかな？」と子どもに投げかけつつ、2歳児と水仙を植え、秋にはヒガンバナの球根にも挑戦しています。畑では芋ほりの面白さだけでなく天ぷらでも味わい、どんぐりは子どもがはしゃいでコンロで茹でるところまで辿り着き、今後どのように変化させるのか職員も楽しみとしています。翌日の取組は子どもに話していて、前日からワクワクしたり、「明日はね、〇〇するんだよ」と家庭で話す子どももいます</p> <p>「楽しい」だけでなく「伝承的な文化」を知ってゆくようにとの視点をもっています</p> <p>運動会では子どもが好きな歌を取入れて盛り上げを図るとともに、職員の中には他園で実施された流行のあそび歌の研修に積極的に参加して、子どもを喜ばせようと努める人もいます。ハロウィンでは職員が制作した仮装を子どもが着て気分を高め、クリスマスにはモミの木の絵を貼りだし、十五夜は2歳児が作ったお団子を1歳児が試食してつながる場を作ったほか、ちとせ飴をペーパーで制作した日もあり、「楽しい」だけでなく「伝承的な文化」を知ってゆくようにとの視点をもった取組が見られ、そのことを評価くださる保護者もいます</p> <p>「やり遂げる喜び」は保護者に代替体験してもらええる企画となるよう期待します</p> <p>行事実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫することは、準備の段階から保育者のお話提供などによりできていますが、0歳児から1歳児・2歳児ということに阻まれ「協力し合い、やり遂げることの喜びを味わえるように」とのねらいをもった行事運営はしてきていません。運動会には保護者を招き、保育者と成長を確認し合っていますが、保育参加会や食事参観などを通じて保護者のヨコの関係づくりを推進することで、「(子どもの代替者として)保護者が協力し、やり遂げる喜びを分かち合う」ことが実現することを期待します</p>				
5 評価項目5		保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている			○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている			○非該当
評価項目5の講評				
<p>一日の疲れを感じる時間帯には子どもの表情や遊びの様子を気づかっています</p> <p>延長保育の場合であってもほぼ18時半で皆帰ります。突然の延長には、保護者が心配なく仕事ができるよう、柔軟に受け入れています。もともと少人数のため、日中と大きく変わると環境とはなりません、一日の疲れを感じる夕方以降の時間帯には子どもの表情や遊びの様子を気にかけるとともに、日中とは違う新たな楽しみとなるよう延長用の玩具を備えています。例えば絵本の読み聞かせ中でも、眠そうな様子が見てとれる子どもは横にさせて休ませるといったことを保育者が臨機におこなっています</p> <p>保育所の生活と家庭生活に切れ間が起きないよう、糊しろを整えています</p> <p>17時頃から合同保育となり、日中とは少し雰囲気異なる環境となりますが、保育者が声掛けをこまめにおこなうことで、子どもの気分に大きく影響しないよう気遣っています。現在1名が19時半の降園のため、18時半から補食としていて、ご飯系が好きな子どもなので炒飯や混ぜご飯を提供しています。夏には汗をシャワーで流して、清潔への配慮とともに気分転換につなげるほか、「現状の合同保育でいいのか」との問いかけも保育者からは生まれていて、1歳児が穏やかに過ごせるよう18時までクラス保育を続けることも検討されています</p> <p>口頭と記録による引継ぎで延長保育の状況と子どもの姿を共有しています</p> <p>その日の活動内容は「タブレットの日誌欄」から確認できます。日勤のクラス担当職員から遅番職員への口頭による申し送りを経て、「ホワイトボード」に当日の延長保育の状況を遅番職員が記入するとともに、保護者への報告を口頭でおこなっています。各クラス担当は翌日「タブレットの日誌」に目を通しており、確実に情報が流れるよう図られています。担任以外の職員も午睡時間を活用した申し送りで各クラスの様子や子どもの状態を把握しており、総じて口頭とタブレット記録、ホワイトボードを以って、子どもの姿を共有しています</p>				

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目6の講評

子どもの食物アレルギーや文化の違いを考慮した食事提供をおこなっています

重要事項説明書には「アレルギーは事前に連絡ください」「卵などアレルギーは除去対応します」と記載されています。現在は対象となる子がいませんが、子どもは拾い食べてしまうのでアレルギーのある子は別テーブルとして、食器も替え、またダムエーターから取り出す際に「アレルギー食出します」「配膳します」「確認しました」と、3段階で確認するようにしています。またインド出身の保護者から「肉は除去して欲しい」と申し入れがあった時には、タンパク質の摂取量を鑑み、魚を代替食として提供したこともあります

子どもが自身の適量を楽しく落ち着いて食べることができるよう支援しています

食事を摂るテーブルや椅子は、以前はカスタマイズでしたが、古くなったので新しく購入し、足を切ることで歳児の成育に合わせています。「テーブルに落ちたものは食べてはいけません」との区の指導を得て、1歳、2歳児にはランチョンマットを導入するほか、食器はご飯とうどんは手に持ったため陶器では重いので軽量のプラスチックを使い、園で概ね備えるものの、エジソン箸は家庭で用意してもらっています。卒園プレゼントには名前入りの木の箸を贈ることも恒例となり、美味しい食生活を継続してもらいたいとの願いが伝わります

月2回の給食会議を通じて、子どもの食に係る取組が改良、向上しています

メニューや味付けの指針として、給食会議が毎月実施されています。園長と栄養士、主任、担任で集会し、「リゾットの食べが悪かった」など、現状に基づいた合議が成されています。特に残食については「半量にしようか」「家での状況確認をしてみようか」と改善案を練り、半量にした場合は残さない確認を経て徐々に増量、自然に完食できるよう工夫しています。行事食についてのアプローチもこの場でおこなわれ、グラタンの上にブロッコリーでもみの木をなぞらえたクリスマスの行事食は子どもだけでなく職員にも大好評でした

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(○●)・非該当1
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input checked="" type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目7の講評

コロナ禍の影響もあって2歳児の手指消毒は身につけ、一連の流れができています

コロナ対策としては入口での手指消毒の習慣化させています。おやつ前、散歩から帰ったあとも必ずおこなうほか、玩具も毎日消毒しています。衝立やアクリル板は子どもが嫌がったので使用していません。マスクは5類移行の本年4月から外しています。単純に外したのではなく、職員間で話し合ったうえで「卒園式でマスクを外した先生の顔がわからなかった」ことを重く受け止め、決定しています。コロナ禍の切迫した状況を経て、手洗いは1、2歳児が実施、2歳児はうがいも併せて出来るようになっていきます

午睡における子どもの状態のチェック方法や保護者との連携には課題が残ります

「乳幼児突然死症候群」の資料は供覧しています。突然死を防ぐためにあおむけに寝かせ、またどうしても寝返りする子どもは職員の横に寝かせています。これらの取組は保護者会で伝えていますが「詳細を説明すると難しく考えてしまうのでは」と捉え、実施方法に留めていません。何らかのアクシデントでうつ伏せになってもコットを使用するため、呼吸に支障はありませんが、家庭においても「眠る」わけですので、備わっている保護者説明用の配付に併せ、保護者が本件について十分理解できるよう図ることを期待します

日々の保育者と看護師の取組、嘱託医の協力を積み重ね健康維持を援助しています

障害児や医療的ケアの必要な子どもの受入れは断っています。総じて健康児ですが、嘱託医の健診を毎月1回おこない、結果は日々の成長記録が綴られた児童票及び連絡帳に記載しています。また日常の健康を守るために、登園時、午前のおやつ前、午睡後の1日3回の検温を保育者が実施するとともに、看護師が視診とボディチェックを励行しています。また入園時に保護者に提出をお願いしている「健康調査票」「児童調査票」で、保護者の意向も網羅しています。食後の投薬などが必要な子どもはこれまでも現在もありません

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(○○●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

保護者が安心して働き続けることができるよう、職員総意で応援しています

入園にあたっての説明会では、保護者から「延長保育は何時くらいまでですか」「急に預かってもらえますか」といった問い合わせが多くあります。園では「当日は遅くとも15時までには連絡が欲しい」「急務もあるでしょうから19時30分頃までは対応に努めますし、何かあっても待ちますので連絡は都度くださいね」といった回答をおこない、おおむね保護者は安心している様子です。区の決まりで保育時間の設定ルールはあるものの、過去には20時まで預かった子どもおり、「できるだけ保育時間には対応しますよ」と、保護者には事前に声をかけています

遅くまで園で過ごすことになる子どもが安心して過ごせるよう図っています

20時まで預かったときや予定より遅くなったときの子どもの不安を紛らせること、子どもが安心して待てるよう取組んでいます。走っても叱らず自由に遊びに浸り、補食でお腹が満たされ眠くなったら寝かせ、夜間の睡眠に支障がない程度に30分ほどで起こしてオムツ替えることがルーティーンとして確立しています。保護者も良心的な人は慌てて引き取りに来るため、遅くなる電話があったとき及び迎えにきたときの声掛けにおいて、保護者が安心出来る言葉を心掛け、罪悪感をもたないように支援する配慮があります

保護者の養育力向上に向けた取組については、十分とは言えず改善の余地があります

1対1の相談及び助言は園長が力を尽くしていますが、事業所として養育力向上への支援は不十分です。例えば、参観会終了後に残る子どもが泣いてしまうことがあるため、参観ではなく保護者参加会をおこなうようになったことも再検討が望まれます。大人の都合や考えではなく子どもにとって何が最善かを考えるスタンスの下、「子どもにとって」を高く優先順位のトップに上げたうえで、保護者が仮に参観会を望むのであれば、「どうしたいか」「何が大切と考えるか」をアンケートや聞き取りで確認して運営に反映させることを期待します

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(○●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目9の講評

園の行事は保護者だけでなく地域にも呼びかけていますが連携は十分ではありません

運動会などに、これまでは地域からの参加実績はありません。来年度にはチラシを門に貼りだしたいと考えています。地域との関わりは植栽におけるボランティア慰問と、通所介護事業所に通う高齢者との行事を通じた1日交流に留まり、「拡げている」「深めている」とは言い難く、今後の課題の一つです。「全体的な計画」の「子育て支援」の欄には「地域交流の機会をもつ」と記載されていますし、家庭でできないことをおこなう役割も担っていることから、地域行事に散歩がてら見物に出かけるといった日を設けることを期待します

地域資源を探求して戸外活動を活性化させ、子どもの成長を支えています

周辺の12公園を巡る散歩コースの確立と頻度の安定とともに、園の畑収穫や季節の花栽培、水遊びなど戸外活動の充実は子どもの成長に大いに貢献しており、保護者からも「挨拶をはじめ自律性・社会性や、自然と関わる力が育っていて、驚くことがある」といった喜びの声が挙がっています。畑のトマトは水遊びしながら摘み、ピーマンの豊作では、普段は食べない子どもが「ボクが育てた」として喜んで食べたとのエピソードからも、子どもが外の世界からグングン吸収している様子が覗え、地域資源と園庭や花壇を活かした活動が有意義に展開しています

運営委員会を通じて地域の見識者の意見を取り入れ、良質な保育につなげています

社会福祉事業について知識、経験を有する見識者を外部委員として、利用者の立場に立った良質な保育をおこなうための意見交換会の機会とすることを目的に、東京都認可保育所において「運営委員会」の設置が義務付けられています。民生委員、税理士、弁護士、保護者代表、園長、主任保育士、事務長、を構成メンバーとして、年2回定期開催され、時には1時間以上となるものの、意見交換は活発とは言えない状況です。今後は主催者としての自覚を高め、アイスブレイクの用意や新聞記事に因る情報提供などの働きかけを望みます

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子ども一人ひとりの特徴を把握した支援の工夫があり、実践を積み重ねています	
内容①	現在、発達支援センターの関わりが必要な子どもが3名います。健常な子どもの状態観察は無論、例えば痙攣を起こしやすいという姿に対し、「話を聞いてあげてください」「お団子三つ、たこ三つと言うと落ち着きます」という対策が園長の発案で奨励され、やがて痙攣を起さなくなったという事例もあります。「お団子三つ、たこ三つ」は園長が愛読していた「雨と雪」という漫画から導入したとのこと。他にも「ボリアンナ物語」の良かった探しも引き出しとして活用され、子ども一人ひとりの特徴を把握した支援の工夫があり、成果につなげています	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	地域に点在する12の公園資源を大いに活用した外遊び活動が充実しています	
内容②	「落ち葉の上を歩くと音がする」「手で触ると粉々になる」、そんな自然体験ができる12の公園は徒歩圏内にあり、セミの抜け殻を沢山見つけたり、トンボを部屋に放った事も楽しい思い出です。持ち帰りの入れ物としているペットボトルは毛糸のくさり編みが巻き付けられている点に子どもへの想いが感じられ、また子ども自身も愛着を持って利用しています。戸外へはトイレトペーパーの芯の双眼鏡も用意しており、好奇心や探求心が湧くような小道具を揃えています。他にも園の畑では、サツマイモや里芋を植え自然に触れることを大切にしています	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル③	「最後までいてくれてありがとう」の気持ちでメッセージカードを送り続けています	
内容③	卒園して1～2ヶ月で、手紙を発信しています。コラージュ創作が好きな園長が、一人ひとりの愛顔を思い浮かべながら「卒園おめでとう」「入学おめでとう」と、心を込めて制作に励んでいます。またそれは、中学、高校、大学と成長の節目にも継続され、返事には改めて返信をおこない、まめに返事がある子どもには、誕生日にもカードを届けています。「先生ご飯行こうね」と連絡が来たり、保護者からも「覚えていてくれたんですね」とLINEが返ってくるほか、大きくなった姿を画像で送ってくれる人もいて、いつまでも仄々とつながることができています	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	区内の認可小規模保育所の活性化とPRとなる冊子作製を推進しています
	内容	園長は「しょうきぼ園連絡会」が発足6年を契機と捉え、発起人となって他2園の協力も仰ぎ、「江戸川区認可小規模保育所」という冊子を作成することを提案しています。現在区内の認可小規模保育所は殆どが企業系であり、母体があることから特段自園が生き残る事への執着が薄いと日頃から当園長が危惧していたことも本紙制作につながった要因の1つです。費用を1園2万円として1ページが与えられ、冊子は各園に2千部、江戸川区にも2千部届けており、各園は自らの特徴を綴ることに実り、区内の保護者に貴重な情報を届けるに至っています
2	タイトル	過去には改善すべき点がありましたが、真摯に向き合い是正に至っています
	内容	「職員の採用時に労働条件を明示していないことがあった」「時間外勤務手当を適正に支給できていないことがあった」「保育士を常時2名以上配置していない期間があった」「児童の事故防止並びに、苦情への対応策が不十分である」といった改善向上点が此処数年挙がっていましたが、不具合を真摯に受け止めて速やかに是正しています。改善すべき点があったことは遺憾ですが、それらを放置せず前向きに解決したことは、保育運営への熱意とも受け止められ、今後の向上に期待が膨らみます
3	タイトル	若い保護者を応援する気持ちが強く、寄り添った声かけと支援があります
	内容	「子どもは良く食べて、よく遊んで、良く寝て、が基本。お母さんにも自分を大事にしてほしい」として、保護者には主に「リズムを作る事に協力してください」と園長から伝えています。「イライラは睡眠の不足が原因だから、6時間睡眠に慣れてね」「イライラを子どもやご主人にぶつけないでね」「自分の楽しいを見つけてね。洋服1枚買うのもいいですよ」「時には9時から16時の範囲なら預かるから、映画見てきていいですよ」と、普段多くの時間を関わる保護者がリフレッシュすることが子どもの育ちに好影響を生むと考えた支援をおこなっています
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の力を信じ任せる取組を増やし、ボトムアップ体制の確立となるよう望みます
	内容	例えば、問題が発生しても園長のリーダーシップの下、共に検討する場を速やかに設けていて安心な体制が確立されていますが、片腕が育っていないことは危惧される課題です。他園の活動状況を鑑みたとき貴園においても、日常の危機管理をはじめとする諸活動において職員自らが課題を見出し、改善策を導きだす力を育み、幾つかの分野においては職員主体の形が築けるように考えます。園長の指導は必要なものの、トップダウンの管理ではなく、職員の力を信じ任せるボトムアップの体制の確立を望みます
2	タイトル	自己評価を毎年実施のうえ、運営がマネジメントサイクルに乗ることを期待します
	内容	自己評価を昨年度は実施したにも関わらず保存されていないことも残念な点です。自己評価の実施についての認識はこれまでありませんでしたが、昨年からの取組を始めており、今後も毎年実施の予定です。但し、自己評価は「大変なもの」として、そのメリットを享受するには至っていません。運営について方針もあり、保護者の役に立っていることや子どもの成長に歓びを感じてはいても、それを持続継続させることには必ず必要なものがあり、その一つが自らの運営や保育を省みることであり、その手法には自己評価がある、ということが腑に落ちていません
3	タイトル	目標設定制度等の整備に取組、「成長していく自らの姿」が明瞭となることを期待します
	内容	園長の「職員に求める姿」は明確なものの、職員がそれを自覚する要素や機会が十分ではありません。「はな保育園業務分担表」には職位と担当が明示されていますが、キャリアパスの導入はなく、職員自らの研鑽や工夫がどのように評価に反映され、組織としての一定の成果につながるのか、その道筋がわかりにくい状況にあります。分担を年度末の会議上で話し合いを以って確認している点は職員の自覚を高める良い取組ですが、今後は目標設定制度の整備や、またその関連として事業継承計画への着手も必要です。できる点から早期に始めることを期待します